

山の神様

大きな山々に囲まれた日本の東北、山形。
私は今、ここにいる。

山で修行する男からこんな話を聞いた。

昔から山の神は女性であり、そこで修行する男たちは、山を産道に見立て、山に女を感じ取ったそうだ。

山の神は醜女という説もあることから、女性が立ち入ることを禁じられ、男根の像を奉って豊作を祈願する風習が残るなど、現在でも多くの山岳信仰は男女の存在に例えて語られる。

人々は山が「ここ」と「むこう」、すなわち「人の世界」と「神々の世界」を分けする境界であると位置付け、時には人々の苦悩までも無限の心で包み込むと信じられてきたことから、山道に無数のお地蔵さまを立てて、神々をそこに留めおく。

2011年3月11日。

世界が終わるような揺れを体感したあの日、震源地からそう遠くないこの山形に、津波は来なかった。

山を大切に守っているこの土地は、山の神様に守られたのかも知れない。

しかし、この山を越えた向こう側で、たくさんの命が消えたのも、また事実である。

山に流れるエネルギーはこの地球の心臓の音のようにも感じる。

水は、この山を生み、生命を創った。そしてその水は皮肉にもたくさんの命を奪い、また山を潤す。

山は、この地球が出来たころから、すべてをしっているのであろう。

山の向こうに消えたたくさんの命について想う。

ここまで生きてきた人々の祈りとともに、私も山を描くことで、世界を祈りたい。

2011年10月
近藤亜樹